

長崎県西海市から得られたエボシダイ科魚類ハナピラウオ

畑 晴 陵・本 村 浩 之

First record of *Psenes pellucidus* (Perciformes: Nomeidae) from Saikai City, Nagasaki Prefecture, southern Japan

Harutaka HATA and Hiroyuki MOTOMURA

長崎県生物学会誌 No.80 , 2017 別刷

Reprinted from

Transactions of the Nagasaki Biological Society, No.80 (2017)

Nagasaki, Japan

長崎県西海市から得られたエボシダイ科魚類ハナビラウオ

畑 晴 陵¹⁾・本 村 浩 之²⁾

First record of *Psenes pellucidus* (Perciformes: Nomeidae) from Saikai City, Nagasaki Prefecture, southern Japan

Harutaka HATA¹⁾ and Hiroyuki MOTOMURA²⁾

はじめに

エボシダイ科スジハナビラウオ属魚類 *Psenes* は体高が高く、通常、標準体長の40%以上を占めること、背鰭起部は胸鰭基底上端よりも前方に位置すること、一部の種を除き背鰭前方鱗被鱗域前端は眼窩後端よりも後方に位置することなどによって特徴づけられ (Haedrich 1967; Haedrich and Horn 1972; Last 2001), 日本からはクラゲウオ *P. arafurensis* Günther, 1889, スジハナビラウオ *P. cyanophrys* Valenciennes, 1833, シマハナビラウオ *P. maculatus* Lütken, 1880, およびハナビラウオ *P. pellucidus* Lütken, 1880の4種が知られる (中坊・土居内 2013)。そのうち、ハナビラウオ *Psenes pellucidus* Lütken, 1880は長崎県内において、五島列島からのみ報告されていた (山田ほか 2007; 中坊・土居内 2013)。

鹿児島大学総合研究博物館所蔵標本の中から、西海市松島産のハナビラウオ1個体が確認された。本標本は西海市における本種の初記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Haedrich (1967) にしたがった。標準体長は体長と表記し、体各部の計測はデジタルノギスを用いて0.1mmまでおこなった。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されている。

結果と考察

Psenes pellucidus Lütken, 1880

ハナビラウオ (図1)

標本 KAUM-I.77102, 体長55.0mm, 長崎県西海市松島, 地曳網, 1989年6月7日。

記載 背鰭条数 X II, 28; 臀鰭条数 III, 27; 胸鰭条数 18; 腹鰭条数 I, 5; 鰓耙数 7 + 14; 側線有孔鱗数 115。

体各部測定値の体長に対する割合(%) : 頭長36.2; 胸鰭長29.1; 腹鰭長41.6; 背鰭前長38.8; 臀鰭前長63.3; 体高59.3; 尾柄高6.9; 眼径10.9; 上顎長12.4; 眼隔幅10.5。

体は円盤状を呈し、著しく側扁する。体高は第1第2背鰭間で最大。体腹縁は吻端から第2背鰭起部にかけて上昇し、そこから尾鰭基底上端にかけて緩やかに下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて下降し、そこから臀鰭起部にかけて直線状を呈し、体軸と並行となる。臀鰭基底から尾鰭基底下端にかけての体腹縁は上昇する。背鰭起部は鰓蓋後端よりも前方、背鰭基底後端は臀鰭基底後端の直上にそれぞれ位置する。胸鰭基底上端は鰓蓋後端よりも前方、背鰭第4棘起部直下に位置し、胸鰭基底下端は腹鰭基底後端よりも僅かに後方に位置する。胸鰭後縁は丸く、後端は背鰭第4軟条起部直下に達する。腹鰭起部は胸鰭基底上端よりも僅かに後方、腹鰭基底後端は胸鰭基底下端よりも僅かに前方に位置する。たまた腹鰭の後端は臀鰭第15軟条起部直下に達する。臀鰭起部は第2背鰭起部よりも僅かに前方に位置する。眼と瞳孔は正円形を呈する。鼻孔は2対で眼の前方に位置し、前鼻孔、後鼻孔ともに正円形をなす。口は小さく、上顎後端は瞳孔の先端直下に達しない。上顎は下顎よりも前方に突出する。上顎には小円錐歯が1列に並び、下顎には薄い小刀状の歯が1列に並び、肛門は臀鰭起部直前に位置する。体は薄い円鱗に被われ、臀鰭を除く各鰭、吻部、鰓蓋後部、および両顎は無鱗。臀鰭の各軟条間には小鱗が背腹方向に1列に並び、背鰭前方鱗被鱗域の先端は眼窩の後端に達しない。側線は完全で、鰓蓋上方から尾鰭基底にかけて体背縁と並行にはしる。鰓弁は細長く、先端は丸みを帯びる。擬鰓上にはフィラメ

¹⁾ 〒890 0065 鹿児島市郡元1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科

²⁾ 〒890 0065 鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館



図1 . ハナピラウオ *Psenes pellucidus* (固定後) KAUM-I. 77102, 体長55.0mm, 西海市松島

ント状の鰓弁をそなえる。

色彩 固定後の色彩 体背面と体側上部は一樣に淡い黄褐色を呈し, 体側下部から体腹面にかけては銀白色。体側上部には黒色素胞が密在する。第1背鰭と腹鰭は一樣に茶褐色。第2背鰭と臀鰭は淡白色を呈し, 縁辺部と中央部に計2本ずつ褐色縦帯がはいる。胸鰭と腹鰭は一樣に乳白色を呈し, 黒色素胞が散在する。

分布 全世界の温帯から熱帯域にかけて広く分布する (Haedrich 1967; Last 2001; Ho et al. 2007; 山田ほか 2007; 中坊・土居内 2013; Chen and Thang 2015)。日本国内においては北海道釧路から土佐湾にかけての太平洋沿岸, 新潟県佐渡ヶ島から長崎県五島列島にかけての日本海・東シナ海沿岸, 愛媛県伊予市, 山口県大島, および沖繩島から知られていた (Haedrich 1967; 中坊・土居内 2013) が, 本研究により, 長崎県西海市松島における分布が確認された。

備考 松島産の標本は, 体が著しく側扁し, 体高が体長の59.3%であること, 背鰭条数がX II, 28, 臀鰭条数がIII, 27であること, 下顎には薄い小刀状の歯が1列に並ぶこと, 背鰭前方鱗被鱗域の前端が眼窩の後端に達しないことなどが, Haedrich (1967), Haedrich and Horn (1972), Last (2001), および中坊・土居内 (2013) の報告した *Psenes pellucidus* の標徴とよく一致した。本種は下顎には薄い小刀状の歯が1列に並ぶこと, 背鰭条数がIX XII, I II, 27-32, 臀鰭条数がIII, 26-31, 胸鰭軟条数が18-20であること, 背鰭前方鱗被鱗域の前端が眼窩の後端に達しないことなどで同属他種と容易に識別される (Haedrich 1967; Haedrich and Horn 1972; Last 2001; 中坊・土居内 2013)。

本種は日本国内において北海道釧路 (松原 1955), 宮城県大谷村 (現気仙沼市; Abe 1954), 茨城県 (茨城の海産動物研究会 2004), 久慈川河口沖 (茨城の海産動物研究会 2007), 東京湾 (岡田・松原 1938), 神奈川県三浦半島南西部 (工藤・岡部 1991), 三浦市三崎 (Tomiyama 1954), 二宮町 (林・西山 1980; 浜口

1991), 静岡県伊豆半島沿岸 (岡村 1997), 沼津市大瀬崎 (吉野 2008; 峯水・松沢 2010), 和歌山県 (宇井 1924), 串本町 (加藤 2014), 白浜町, 田辺湾, みなべ町 (池田・中坊 2015), 高知県 (宇井 1924), 室戸市椎名, 須崎市 (Kamohara 1952), 兵庫県淡路島 (米田 2013), 新潟県佐渡ヶ島 (本間ほか 1984), 富山湾 (片山 1940; 魚津水族博物館 1997), 石川県能登町 (坂井 2010), 福井県若狭湾 (Takegawa and Morino 1970), 兵庫県日本海沿岸 (鈴木ほか 2010; Shino-hara et al. 2011), 浜坂町穴見沖 (鈴木・宇野 1993), 山口県北方 (山田ほか 2007), 萩市沖 (松原 1955), 山口県下関市響灘沿岸 (土井ほか 2015), 鹿児島県長島列島長島 (並田 1977), および沖繩島 (Ibarra and Stewart 1987) などから報告されている。長崎県内においては, 山田ほか (2007) によって五島列島における分布が報告されているのみであった。したがって, 本研究の記載標本は西海市における本種の初めての記録となる。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり, 鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本の作製・登録作業などを手伝っていただいた。元長崎大学水産学部の千田哲資博士には標本を提供していただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究の一部は笹川科学研究助成金 (28745), JSPS 研究奨励費 (DC 2 : 29 6652), JSPS 科研費 (19770067 23580259 24370041 26241027 26450265), JSPS 研究拠点形成事業 - アジア・アフリカ学術基盤形成型 - 「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」, 総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

文 献

- Abe, T. 1954. New, rare or uncommon fishes from Japanese waters. IV. Records of rare fishes of the families Lophotidae, Nomeidae and Icosteidae. Japanese Journal of Ichthyology 3 (2): 90-95.
- Chen, D. and Zhang, M. 2015. Marine fishes of China. 2154 pp. China Ocean University Press, Qingdao.
- 土井啓行・久志本鉄平・園山貴之・石橋敏章・西川真

- 登・酒井治己 2015. 山口県響灘における小型定置網の漁獲物. 水産大学校研究報告63(2): 127-143.
- Haedrich, P. 1967. The stromateoid fishes: systematic and a classification. Bulletin of the Museum of Comparative Zoology 135: 31-139.
- Haedrich, R. L. and Horn, M. H. 1972. A key to the stromateoid fishes. Woods Hole Oceanographic Institution Technical Report 1972 (3): 1-46.
- 浜口哲一 1991. 動物資料目録, I. 平塚市博物館資料38: 106-140.
- 林 公義・西山喜徳郎 1980. 西湘定置網で漁獲された魚類. 神奈川自然誌資料1: 15-27.
- Ho, H.-C., Chiang, W.-C., Shao, K.-T. and Chang C.-W. 2010. Description of four new records and a key to the stromateoid fishes in Taiwan. Journal of the Fisheries Society of Taiwan 37 (4): 253-262.
- Ho, J.-S., Nagasawa, K. and Kim, I.-H. 2007. *Sarcotretes longirostris* n. sp. (Copepoda: Pennellidae) parasitic on bluefin driftfish (*Psenes pellucidus*) from the stomachs of short-finned pilot whales caught off Japan. Journal of Crustacean Biology, 27(1): 116-120.
- 本間義晴・水沢六郎・鈴木庄一郎・岡田成弘 1984. 新潟県魚類目録補訂(XI). UO34: 11-36.
- 茨城の海産動物研究会 2004. 茨城北沿岸域を中心とした魚類. 茨城県自然博物館第3次総合調査報告書.(ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編), pp. 429-449. ミュージアムパーク茨城県自然博物館, 坂東.
- 茨城の海産動物研究会 2007. 久慈川河口沖合を中心とした魚類. 茨城県自然博物館第4次総合調査報告書.(ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編), pp. 409-430. ミュージアムパーク茨城県自然博物館, 坂東.
- Ibarra, M. and Stewart, D. J. 1987. Catalogue of type specimens of recent fishes in Field Museum of Natural History. Fieldiana Zoology (New Series) 35: 1-112.
- 池田博美・中坊徹次 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 597pp., 東海大学出版部, 秦野.
- Kamohara, T. 1952. Revised descriptions of the offshore bottom-fishes of Prov. Tosa, Shikoku, Japan. Reports of Kochi University, Natural Science 3: 1-122.
- 片山正夫 1940. 富山湾産魚類目録. 富山博物學會誌 3: 53-80.
- 加藤昌一 2014. ネイチャーウォッチングガイドブック 改訂新版 海水魚 .pp.383pp., 誠文堂新光社, 東京.
- 工藤孝浩・岡部 久 1991. 三浦半島南西部沿岸の魚類. 神奈川自然誌資料11: 29-38.
- Last, P. R. 2001. Nomeidae. Pp.3771-3779 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific, volume 6: Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae). FAO.
- 松原喜代松 1955. 魚類の形態と検索. Part I. xi + 789pp., 石崎書店, 東京.
- 峯水 亮・松沢陽士 2010. 日本の海水魚466. 319pp., 文一総合出版, 東京.
- 中坊徹次・土居内 龍 2013. エボシダイ科. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版.(中坊徹次 編) Pp.1081-1083, 2041-2042. 東海大学出版会, 秦野.
- 並田正和 1977. 長島水産実験所周辺の魚類相. 250pp., 12pls. 鹿児島大学水産学部修士論文.
- 岡田彌一郎・松原喜代松 1938. 日本産魚類検索. xi + 584pp., 三省堂, 東京.
- 岡村 収 1997. ハナヒラウオ *Psenes pellucidus*. 山溪カラー名鑑 日本の海水魚.(岡村 収・尼岡邦夫 編) P.662, 山と溪谷社, 東京.
- 坂井恵一 2010. のと海洋ふれあいセンターに収蔵されている魚類標本 - III. のと海洋ふれあいセンター研究報告16: 15-38.
- Shinohara, G., Shirai, S. M., Nazarkin, M. V. and Yabe, M. 2011. Preliminary list of the deep-sea fishes of the Sea of Japan. Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series A 37(1): 35-62.
- 鈴木寿之・細川正富・波戸岡清峰 2000. 兵庫県産魚類標本目録 - 鈴木寿之魚類コレクション兵庫県産 編. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第32集. 143pp., 大阪自然史博物館, 大阪.
- 鈴木寿之・宇野政美 1993. 魚類図鑑 浜坂町の沿岸魚. 34pp., 浜坂町, 浜坂.
- Takegawa, Y. and Morino, H. 1970. Fishes from Wakasa Bay, Japan Sea. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory 17(6): 373-392.
- Tomiyama, I. 1954. *Icticus pellucidus* (Lütken) (Nomeidae). Figures and descriptions of the fishes of Japan, 50: 1002-1007, pls.200-201.
- 宇井縫蔵 1924. 紀州魚譜. 282+43pp., 紀元社, 東京.
- 魚津水族博物館 1997. 富山湾魚類リストおよび富山湾産希少魚類の採集記録. 79pp. + 8 pls., 魚津水族館, 魚津.
- 山田梅芳・時村宗治・堀川博史・中坊徹次 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 1262pp., 東海大学出版会, 秦野.
- 米田泰亮 2013. 浜からのたより 共同生活者は殺し屋 姫路市立水族館だより 山のうえの魚たち60: 8.
- 吉野雄輔 2008. 山溪ハンディ図鑑13図鑑日本の海水